

詩篇 89 編の神学概念史

愛 甲 悟

序文

詩篇第 3 卷の末尾に置かれた詩篇 89 編は独特のしかたで YHWH（主）を賛美し、ダビデ王家に与えられた約束を回顧し、この王朝理念の下に嘆く哀歌である。この詩篇には複数の層が存在し、そこから神学概念の発展を見ることが出来る。この詩篇を構造、様式によって分類、分析し、そこからこの詩篇に見られる神学概念の展開を追ってみたい。

詩篇 89 編私訳

1 エズラ人エタンのマスキール

2 YHWH の確かな愛を私は永遠に歌い

私の口であなたのまことを世々に知らせめる

3 私は言った「確かな愛は永遠に立てられ

あなたはあなたのまことを天に堅く据えられる」

4 私は私の選んだものと契約を結び

私の僕ダビデに誓った

5 私はあなたの子孫を永遠に堅く据え

私は世々にあなたの王座をたてる」 セラ

6 天はあなたの偉大なるを誉め歌う、YHWH よ

聖なるものの集いにおいて、あなたのまこともまた

7 まことに雲の上のもので誰が YHWH に並び得ようか？

神の子らのうちで誰が YHWH のようであろうか？

8 多くの聖なるものの会議のうちで、おそろしい神

その周りのものすべての上におそるべき方

9 万軍の神 YHWH、あなたのようなものがあるか、力強き YH よ

あなたのまことはあなたをかこむ

10 あなたはヤムの高まりを支配し

その波の高まるのを静める

11 あなたはラハブを刺し貫かれたように、打ち倒し

あなたの力強い腕であなたの敵を散らされた

12 天はあなたに、地もあなたに

世界とそれを満たすものに、あなたは基を据えられた

13 北も南もあなたが創られた

タボルもヘルモンもあなたの名を誉め歌う

14 あなたには力強い腕があり

あなたの手は強く、あなたの右の手は高く上げられる。

15 正義と公義はあなたの王座の支え

確かな愛と真実はあなたのみ前に進みでる。

16 幸いかな喜びの叫びを知る民は

YHWH よ、彼らはあなたの顔の光の中歩む

17 あなたの名に彼らはいつも喜び叫び

あなたの義に彼らは高まる

18 なぜならあなたは彼らの力の輝き

あなたの好意により我らの角は上げられる

19 なぜなら我らが盾は YHWH にこそ

我らが王はイスラエルの聖者にこそ

20 そしてあなたは幻であなたに忠誠を尽くすものたちに語り

そして言われた「私は勇者に助けを置き、民のうちより選ばれたものをあげた」

- 21 私はわが僕ダビデを見出し
聖油で彼に油注いだ
- 22 というのも、わが手は彼に、堅く立たせ
わが腕は彼を強めるからだ
- 23 敵は彼をあしざまに扱い得ず
不正の子らは彼を迫害し得ない
- 24 私は彼の顔前で彼の敵を打ち
彼に対立するものたちを打ち倒す
- 25 わがまことと、わが確かな愛は彼と共にあり
わが名において彼の角は高まる
- 26 そして私は「海」に彼の手を据え
「流れ」に彼の右の手を置く
- 27 彼は私を呼ぶ「あなたこそわが父
わが神、わが救いの岩」と
- 28 また私も彼を初子とし
地の諸王にとって「いと高き者」とする
- 29 私は永遠に彼を守り、わが確かな愛
そして私の契約は彼にとって変わらない
- 30 私は据える、彼の子孫までをも
彼の王座を天の日々のように
- 31 もし彼の子らが私の律法を忘れ
私の義に歩まないなら
- 32 もし、私の義務の業を彼らが破り
私の命令を彼らが守らないなら
- 33 私は罰する、杖で彼らの咎を
鞭で彼らの罪を
- 34 だが私の確かな愛を私は彼らから破らない
私は私のまことにもとめることはしない

35 私は私の契約を破らず

私の唇から出たことを取り去らない

36 私はかつて、私の聖にかけて誓った

私は決してダビデを欺かない

37 彼の子孫は永遠に存続し

彼の王座は太陽のように私の前にある。

38 彼は月のように永遠に存続し

証人は雲にたしかにいる セラ

39 しかし（その他でもない）あなたは、取り去り、拒絶された

あなたは怒りを示された、あなたの油注がれたものに

40 あなたはあなたの僕の契約を拒絶し

彼の冠を地に貶められた

41 あなたは彼のすべての城壁を崩し

彼の砦を廃墟とされた

42 すべて道行く人々は略奪し

彼は彼の隣人たちにとって笑いの種となった

43 あなたは彼の仇の右手を上げさせ

彼のすべての敵を喜ばしめた

44 また、あなたは彼の剣の刃を戻し

彼を戦において立たしめなかった

45 あなたは彼の栄えを止ましめ

そして彼の王座を地に投げ下ろした

46 あなたは彼の若き日々を短くし

あなたは彼を恥でくるんだ セラ

47 いつまでですか、YHWH よ！ あなたは永遠にお隠れですか！

（いつまで）あなたの憤りを火のように燃やされるのですか！

48 私をおぼえてください！ なんとという生涯か！

なんとむなしいものとしてあなたはすべて人の子らを造られた

49 いかなる者が生きて死を見ないであろう

いかなる者がシェオルの手より彼の魂を救い得よう セラ

50 あなたの初めの確かな愛の業はどこに？ 主よ

あなたはあなたのまことにおいて、ダビデに誓われたのに

51 主よ、あなたの僕の辱めを覚えてください

私は私の胸に多くの民を上げます

52 すなわちあなたの敵はあざけたのです、YHWH よ

あなたの油注がれた者をあざけたのです

53 YHWH は永遠にほむべきかな、アーメン、アーメン

本文決定

3 節の **כִּי־אֶמְרֵי** (キー・アーマルティ) を **כְּאֶדְמַת** (ケアドマト) と読みかえる指示は、「地にはたしかな……天には堅く……」という、完全な並行例を狙ったものであるが、この **כִּי־אֶמְרֵי** (キー・アーマルティ) がなくなってしまうと、39 節の **וְאֶתָּה** (ウェアッター) との強烈なコントラストがなくなってしまう。また、主語を 2 人称にし、続く 3-5 節全体を 1 人称 YHWH, 3 人称ダビデの文にし、文体の統一を図る変更例は、この後述べる人称、用語、韻律の一致の観点から棄却される。

13 節の **וְיָמִין** (ウェヤーミーン) を **אֲמִנָּה** (アマーナー) (アマナ山)¹⁾ と解釈する学者もいる²⁾。この場合、「北」と訳した **צִפְּוִן** (ツァーフォーン) はツァフオン山を指し、4 つの聖山を表す語となる。しかし、ここではその可能性を残しつつ、この説は採用しないことにする (詳細後述)。

20 節の **לְחַסְדֵּיךָ** (ラハシーデーカー) (pl.) を単数に読みかえようとする例もある。複数の場合、預言者たち、単数の場合はナタンを指すようになる。また、**עֶזְרָא** (エーゼル) を 40 節の **נֶזֶר** (ネーゼル) と対応させ、**נֶזֶר** (ネーゼル) と読みかえる例も示唆されている。しかしどちらも *lectio difficilior* (レクティオ ディフィキリオール) (より難しい方を採用する) によって、棄却される。詩篇 89 編はナタン預言との関連で読まれることが多く、そのため、語ったのをナタンと同定す

る後世の写本家がいたとしても何ら不思議ではなく、また、ダビデ王家のキーワードとなっている **נֶזֶל** (ネーゼル) に書きかえることも十分にありえることである。

31 節の **בְּנָיו** (バーナーウ) 「彼の子孫達」を単数形に読みかえることが示唆されている。複数形の場合はダビデ王家全員を指し得るが、単数形の場合、ソロモン王をのみ指す。サム下 7:12, 代上 17:11 の **זֶרְעָךָ** (ザルアカー) (ソロモンをのみを指す) からの連想であろう。従って、ここも複数形のまま読む。

38 節の **נֶעַד בַּשָּׁחַק** (ウェエード バッシャハク) を **בְּעֹד הַשָּׁחַק** (ベオード ハッシャハク) 「雲にまでたしか」あるいは **לְעֹד בַּשָּׁחַק** (レエード カッシャハク) 「雲のようにいたるまでたしか」など、いろいろに書きかえる例が存在する。この箇所に関しては、学者の間でも意見が大きく分かれ、さまざまな説が提示されている³⁾。ここでは、この件に集中することが目的ではないこともあり、マソラ本文の表記に従う。

44 節の **צוּר** (ツール) は **צוֹר** (ツォール) 「刃」または、**מִצֵּר** (ミッツェル) 「敵から」ではないかとされる。タルグムは *l' hwr* 「剣を後ろに返し」としている。実際、**צוּר** (ツール) はこの詩篇で神について用いられている (27 節)。そこから写本家が誤記したことも十分にありえる⁴⁾。

47 節の **תִּסְתַּר** (ティッサーテール) 「隠れる」をシリア語では *rgz' nt* 「怒る」= **תִּקְצֹף** (ティクツォーフ) としている。この形だと、47a と 47b は完全な並行になるが、これも、*lectio difficilior* によって棄却される。

48 節の **זְכֹר־אֲנִי** (ゼコルアニー) 「私をおぼえてください」を BHS は **זְכֹר־יְיָ** 「主を覚えよ」とする。この形は 51 節の **זְכֹר אֲדֹנָי** (ゼコル アドーナィ) と対応した形になる。しかし、マソラのままでも十分に意味が通じる上、47-52 節は「わたし」「あなた (= 神)」「敵」など、典型的な個人の嘆願の形態を取っている。ここで **אֲנִי** (アニー) が置かれていることに何ら問題はない。

人称・韻律の変化

この詩篇の中では興味深い人称の変化が見出される。この人称の変化を表に

すると以下のようなになる。

節	1 人称	2 人称	3 人称
1			
2	詩人	YHWH	(YHWH)
3	詩人	YHWH	
4	YHWH		選んだ者 / DWD
5	YHWH	DWD	DWD の子孫・王座
6		YHWH	(天／聖なるものの集い)
7			(雲上の者／神の子ら)
8			(↓)
9		YHWH	
10		↓	海・波
11		↓	ラハブ・敵
12		↓	天地・被造物
13		↓	同上 (あるいは聖山?)
14		↓	
15		↓	義・公義・確かな愛・まこと
16		↓	「喜びの叫びを知る民」
17		↓	↓
18	(詩人? pl. > 民)	↓	↓
19	↓	↓ (イスラエルの 聖者・我らの王)	
20	b.YHWH	a. ↓	DWD / 預言者
21	↓		DWD
22	↓		↓
23	↓		↓
24	↓		↓
25	↓		↓
26	↓		↓
27	YHWH (会話中 DWD)	(会話中 父・神・ 救いの岩)	DWD
28	YHWH		DWD
29	↓		↓
30	↓		DWD の子孫・王座
31	↓		子孫
32	↓		↓
33	↓		↓
34	↓		↓

35	↓		契約
36	↓		DWD
37	↓		DWD の子孫・王座
38			a. 子孫・王座? (sg. = DWD?) b. 証人
39		YHWH	メシア
40		↓	あなたの僕
41		↓	↓
42		↓	↓
43		↓	↓
44		↓	↓
45		↓	↓
46		↓	↓
47	詩人 (嘆願者)	↓	
48	↓	↓	
49	↓		(死を見ない者はいない)
50	↓	YHWH	DWD
51	↓	↓	あなたの僕
52	↓	↓	メシア
53			

また、この詩篇には多少の韻律の破格はあるものの 4 + 4 および 3 + 3 の 2 行詩からなる。それぞれの配置を表に表すと右のようになる⁵⁾。

また、セラが 5, 38, 46, 49 節に置かれている。

これらをまとめて表記すると以下のようなになる。

節	韻律
2, 3	4+4 詩
4, 5	3+3 詩
6-16	4+4 詩
17-46	3+3 詩 ⁶⁾
47-52	4+4 詩

	人称	韻律	セラ
2-3節	詩人→ YHWH	4+4	セラ
4-5節	YHWH→ダビデ王家	3+3	
6-16 節	2 人称 YHWH	4+4	セラ
17-20a 節		3+3	
20b-38 節	YHWH→ダビデ王家		
39-46 節	詩人→ YHWH		セラ
47-49 節		4+4 (v47 4+3)	セラ
50-52 節		4+4 (v50 4+3)	

詩篇 89 編の全体構造

人称の変化を見た場合、この詩篇は詩人が YHWH を賛美し、訴えている箇所 (2, 3, 6-20a 節, 39-52 節) と、YHWH がダビデ王とその王家に対する約束を語っている箇所 (4, 5, 20b-38 節) が浮き彫りにされる。韻律から考えると、この詩篇は大まかに 4 + 4 調の部分 (2, 3, 6-16, 47-52 節)、そして 3 + 3 調の部分 (4, 5, 17-46 節) の二つに分けることができる。また、詩篇の分類から考えると、この詩篇は大まかに創造の賛美 (2, 3, 6-19 節)、ダビデ契約 (4, 5, 20-38 節)、哀歌 (39-52 節) の 3 パートに分類することができる。

用語面でもいくつか、面白いことが発見される。4 節に集中して見出されるダビデ契約的キーワード **בְּרִית** (ベリート)、**בְּחִיר** (バーヒール)、**שָׁבַע** (シャーバア)、**דָּוִד** (ダーウィド)、**עֶבֶד** (エベド) の 5 者はそれぞれこの後 **בְּרִית** (ベリート) 29, 35, 40 節, **בְּחִיר** (バーヒール) ⁷⁾ 20 節, **שָׁבַע** (シャーバア) 36, 50 節, **דָּוִד** (ダーウィド) 21, 36, 50 節, **עֶבֶד** (エベド) 21, 40, 51 節において再び用いられているが、それ以前の 6-19 節には一切登場しない。また、5 節の **זֶרַע** (ゼラア)、**כֶּסֶף** (キッセー) も **כֶּסֶף** は例外的に 15 節で用いられている ⁸⁾ もの、**זֶרַע** 30, 37 節, **כֶּסֶף** 30, 37, 45 節と全て、20 節以降 (さらにいえば 30 節以降) になってはじめて再登場している。

YHWH の約束 = ダビデ契約の箇所は 20 節 a の「かつてあなたは語り (**דִּבַּרְתָּ** (ディツバルター)) ~、そしてあなたは言われた (**וַתֹּאמֶר** (ウァットーメル))」により、詩人が、「すでに常識となった」YHWH のダビデ王家に対する約束の言葉を引用しているものといえる。そして、それなのに !! あなた (**אַתָּה וְנִחַתָּ** (ウエアッター ザーナフター) 強調の構文 ⁹⁾) = YHWH がそのようにダビデ王家に対して約束したのに、なぜ、自分はこのような悲惨な目にあっているのか、そう詩人は嘆き、問うているのである。詩人は、引用部分で三人称で語られているダビデ王家とこのように自己同一性を持っているように自ら嘆く。また、以後、2, 3, 6-19 節 (創造賛美) を 89 編 A, 4, 5, 20-38 節 (ダビデ契約) を 89 編 B, 39-52 節 (哀歌) を 89 編 C と呼ぶことにする。また、89 編 B は 30 節から突然

子孫に対する約束に切り替わる。用語面でも 5 節の זָרָא (ゼラア), קִסְסֵּי (キッセー) 両語は 30 節をすぎてから、再登場する。そこで、20-29 節を 89 編 B α , 30-38 節を 89 編 B β と呼ぶことにする。また、89 編 C においても 47 節以降は特殊な個人の嘆きの形になっている。47-49, 50-52 節は後述するように対応関係を持って語っており、それまでの哀歌とは形式が異なっている。従って、ここも、39-46 節を 89 編 C α , 47-52 節を 89 編 C β と呼ぶことにする。

89 編 A と 89 編 B の、それぞれの始めの二節ずつは、それぞれ本体から切り離され、この詩篇の頭に置かれ、しかも、この四節はそれのみでセラを置かれている (5 節)。この独特の構造はこの詩篇の重要な特徴、性質と結びついている。89 編 A-C の各論の後、結論部分でこの特殊な構造について紙面を割きたい。

詩篇 89 編 A

89 編 A は『エヌマ・エリシュ』¹⁰⁾ や『バアルとアナト』¹¹⁾ に見られるような創造神話表象をその内に保存し、取り込んでいる。6-9 節において、YHWH は天上の会議の主神として描かれている。さらに 10 節で YHWH はヤムの高まりを支配する。また、ラハブを倒す (11 節)。そして被造世界を創造する (12-13 節)。YHWH は宇宙の王であり (14-15 節)、民に歓呼を持って迎えられ、また、民を守る (16-19 節)。ここにおいてはこの詩篇は明確に YHWH を古代中東的な仕方で主神としてあがめているのである。

とはいうものの、この 89 編 A にはこれらの神話との明確な相違点もまた存在している。まず、『エヌマ・エリシュ』においてはアヌが、『バアルとアナト』においてはエルがそれぞれ最高神として存在しており、マルドゥク、バアルは最初の時点では群神の一人であり、それぞれ、ティアマトやヤムを倒すために、あるいは倒すことによって創造者の地位につけられている。それに対し、この 89 編 A では最初から YHWH は天上の会議において比類なき地位に立っている者として描かれている (6-9 節)。また、特に『バアルとアナト』との対比において、ここで描き出されている表象は徹底して YHWH を“独り”の神として

描き出している。『バアルとアナト』においてはバアルの妹にして伴侶である、アナト神の存在が重要な役割を演じることとなっている。アナトは、バアルの宮殿設立に尽力し、また、ひとたびバアルがモート（死の神）の手に落ちるや、果敢にモートに挑み、バアルを助け出す¹²⁾。では、YHWH 信仰に伴侶神は存在しなかったのだろうか？ 実際には、バアルの聖婚祭儀にみられる諸概念を YHWH 祭儀に「借用 (borrow)」あるいは積極的に「模倣 (imitation)」してゆく中で¹³⁾、この伴侶神のイメージはイスラエル宗教に度々もぐりこもうとしていた。おおよそ 750 B.C.-700 B.C. に年代づけられている Khirbet El-Qom (キルベト エル コーム) の碑文¹⁴⁾ にはそれを示す記述が見出される (3 行目)¹⁵⁾。また、Kuntilet 'Ajrud (クンティレット アジュルド) の碑文¹⁶⁾ にも 1 行目に同様の記述が見られる¹⁷⁾。また、申命記 16:21 には、あなたの神・YHWH の祭壇の傍らに「アシェラの木像」を建ててはならない、と記されている¹⁸⁾。これは、現実にはそれが立てられていることを前提として、「YHWH のみ運動」の結果、書かれたものであるといえよう。実際、ヨシア王による申命記改革において、「木／アシェラ」は徹底的に取り除かれているのである (王下 23:6-7)。この結果、この詩篇 89 編 A からは聖婚祭儀が完全に欠如する結果となったのであった。

実際、この詩篇 89 編 A には、古い表象が見られる。אֱלִים (エーリーム) 「神神」(7 節) という言葉は、出エジプト記 15 章の「海の歌」11 節にも見出される。また、√ שיר (シール) 「歌う」という表現は「海の歌」、「ミリアムの歌」、「デボラの歌」(士師 5 章) にも見出される。また、この√ שיר という語はバアルに対しても用いられる。

tšr dd 'al[iyan] b'l¹⁹⁾

彼女は歌う 愛を いと高き バアルへの

dd はヘブル語の דוד (ドゥード) 「愛」と同語根語である。この語は主に雅歌に集中的に用いられる語であるが (61 件の用例中 39 回)²⁰⁾、イザヤ 5:1 においては先ほどのバアル賛歌同様√ שיר (シール) の目的語となっている。また、ダビデという固有名詞はこの語の派生語である。'al[iyan は「神名に関わる語」

でも取り上げた עֲלֵיךְ (エルヨーン) と同語根である。また、2 節の לְדֹר וָדֹר (レドール ワードール)「世々に」 עוֹלָם (オーラーム)「永遠に」を組み合わせる表象も、ウガリットの表現を受け継いだものである²¹⁾。

tph mlk 'lmk drkt dt drdrk²²⁾

あなたはとる一王(国)一あなたの永遠の 支配一あなたの世々の(又は会議?)

また、神々の会議の表象も多くウガリットに見出される。6 節の בְּקֶהֱל קְדָשִׁים (ビケハル ケドーシム)「聖なる者の集いにおいて」も

mpht l gbl qdšm²³⁾

会議一神の一ビブロスの 聖なる

のような用例が確かめられている。その他にも, phr 'ilim²⁴⁾「神々の会議」また、その同語根のアッカド語 *ḫp-hr ilani^{mes}* も同じ意味である²⁵⁾。また、ウガリット語 dr が「世々」を意味せず「会議」という意味の時、創造神話と非常に密接な関係があることを示す例として

dr 'il w phr b'l²⁶⁾

会議一エルの and 集い一バアルの

という並行法にも見出される。2 節の לְדֹר וָדֹר (レドール ワードール) という表象はウガリットの神話表象を詩篇 89 編 A が深く取り込んでいる証拠の一つといえる。

詩篇 89 編 A は「出エジプト」について言及しているであろうか²⁷⁾。出エジプト物語における紅海の奇跡物語は驚きと賛美をもって、旧約聖書中のいたるところで繰り返し語られている表象である²⁸⁾。また、詳細は 89 編 B の項目に譲ることになるが、サムエル記下 7 章における「ナタン預言」は出エジプトと荒野の放浪時代のモチーフをダビデ契約の前においている。そのイメージを転用するならば、この箇所を出エジプトと理解することはたいして無理のないことのようにも思われる。殊に第二イザヤにおいてこのイメージは救済者なる神に転用されている。しかし、この詩篇 89 編 A には明確な第二イザヤとの違い・欠如が存在する。まず、出エジプトの最重要キーワードの一つ √ נִצַּח (ヤー

ツァー)「出る」や, סוף (スーフ)「葦」²⁹⁾ がここには全く存在しない。また, 第二イザヤにおいて, בָּרָא (バーラー) は נָאֵל (ガーアル)「贖う」とほぼ同義語であるが, ここにはその描写も全く見られない。また, 第二イザヤがエジプトについて言及する際, そこには明確に現在イスラエルを「奴隷としている」バビロンへのアナロジー, そして, 出エジプトがそうであったような, いやそれ以上の解放が投影されている。しかし, この詩篇全体を通してみても, そのような思想, 表現は皆無である。むしろ, ここに表されている神話表象は出エジプトの刻印の押される以前の純粹に創造物語としての神話表象と言って問題ないであろう。

詩篇 89 編 B

詩篇 89 編 B はダビデ王家に対する神の約束を記した箇所である³⁰⁾。ここに示された契約の型は, 古代中東においてあらゆるところで見出される「王権譲与の契約」の形をとっている³¹⁾。

主題ごとに, サム下 7 章と詩篇 89 編 B を比べてみる。最大の相違点は, サム下 7 章におけるダビデ王が神のために神殿を奉献しようとする決意するくだりが, 89 編 B には全く見出されない点である。また, חֲזִין (ヒッザーヨーン)³²⁾ (サム下 7:17) はナタンがその夜見た「夢」のくだりを意味しているが, חֲזִין (ハーゾーン) (詩 89:20) は預言者達に与えられた, 「幻」全般を意味しうる点も重要な要素である。また, サム下 7 章において出エジプトの出来事が語られているのに対し, 89 編では創造賛美が行われている。

さらにサム下 7 章の構造を見てゆくと 5 節と 8 節に וְעַתָּה כֹּה־תֹאמַר לְעַבְדִּי לְדָוִד 「おまえは私の僕ダビデに告げよ」という表記が見出される。5-7 節は出エジプトの主題をモチーフにしている箇所であり, 89 編 B と関連のある箇所はこの二つ目の וְעַתָּה כֹּה־תֹאמַר לְעַבְדִּי לְדָוִד からである。また, この託宣全体は 1 人称 YHWH, 2 人称ダビデの形で語られ, ほとんどの約束はダビデに対してなされている。しかし, וְכִנֹּנְתִי אֶת־כִּסֵּא מַמְלַכְתּוֹ עַד־עוֹלָם 「王座を永遠に堅く据える」(13 節), אֲנִי אֶהְיֶה־לוֹ לְאָב וְהוּא יִהְיֶה־לִּי לְבֵן 「父—子」表象 (14 節 a), בְּנֵי אָדָם

「罰」(14 節 b), אֲשֶׁר בְּהַעֲוֹתוֹ וְהִכְחָתִיו בְּשֹׁבֶט אֲנָשִׁים וּבְגִנְעֵי
 「慈しみ」(15 節) といった項目は全てダビデの子 (= ソロモン) に対する約束と
 して, 目的語 3 人称単数男性で語られている。その後再び 16 節で目的語の人称
 は 2 人称・ダビデに戻るが, これは 16 節 b において מִלְּפָנֶיךָ 「あなたの前から
 (サウルを退けた)」という表象があるため, この接尾目的語 ָךְ に引かれての事
 とも言えそうである。サム下 7 章の描写は過去の具体的イスラエル史やその戦
 争をモチーフにしているのに対し, 89 編 B のそれはあくまで, ダビデの時点
 では未来の表象を取り扱っている。語レベルでの関連までを視野に入れると以
 下のようなになる。

サム下 7 章	主題	構造		詩篇 89 編 B
1-3 節	神殿奉献		物語文	
4 節	ナタンの夢	枠	物語文	20 節
5-7 節	出エジプト	私の僕ダビデに告げよ	YHWH—ダビデ	
8 節	約束	私の僕ダビデに告げよ	YHWH—ダビデ	20, 21 節
9 節	共にいること		YHWH—ダビデ	22 節
10-12 節	過去の回顧		YHWH—ダビデ	
13b 節	王座の約束		YHWH—ダビデ	
14a 節	父—子		YHWH—ソロモン	27, 28 節
14b 節	懲らしめ		YHWH—ソロモン	31-33 節
15 節	慈しみ		YHWH—ソロモン	34-36 節
16 節	王座の約束		YHWH—ダビデ	37, 38 節
17 節	ナタンの夢	枠	物語文	(20 節)

見ての通り, 両者は文の並び方まで共通している。従って, 両者には明確に
 テキスト上の関連があるといつてよい。

石田は「新アッシリアの預言」³³⁾ とナタン預言の類似性を提示した。そのう
 ちいくつかは, 詩篇 89 編に非常によく適応する³⁴⁾。

- (1) 神による王の選び (20-21 節)
- (2) 王朝と王権の子への継承 (30 節)
- (3) 神が王を子とする (27-28 節)
- (4) 神の王への愛 (29 節)
- (5) 王の永遠の支配の約束 (29 節)

まず、第一にいえることは、ここであげられた例はどれも、王を2人称男性で呼んでいる事である（単数-*ka*、複数-*kunu*）。これに対し、詩篇89編では王を3人称単数男性で呼んでいる。サム下7章の場合、その前半部分では（7:3-12）2人称単数男性に語っているが、「養子縁組」の叙述（サム下7:14）をはじめ、ソロモンに関する部分（13-15節）では3人称単数男性になっている。大変興味深いことに、この3人称の部分は詩篇89編と強い関連性を示すが、2人称の部分は8, 9, 16節以外は89編と関連するとは言いがたい。(2)において、王朝は「おまえの子（DUMU-*ka*）」、さらに「おまえの子の子（DUMU.DUMU-*ka*）」に受け継がれるものとされている。詩篇89編では「彼の子孫 כִּנִּי (バーナーウ) (pl.) (31節)」に約束されているので、これはほぼ平行な表記と考えて良いが、サム下7章の記述では「子=ソロモン（12節）」にのみこれは約束されている。(3)（聖婚祭儀の中において）、神（ドウムジとイシュタル）は、「私はおまえの父、おまえの母（*a-na-ku AD-ka AMA-ka*）」と宣言する。聖書の中では完全に「父」のみ（אֲבִי אֶתָּה (アービー アッター)）である。(4)において、神が王を愛しているという事を宣言する際、*rîmum*（愛する者）という語が用いられている。これはヘブル語のרִחַם (ラーハム) と同語根語である。(5)「大いなる天より地に（*ina KI TA AN-e ra-bu-te*）」あなたの王座が永続する、という表象は37, 38節の表象を暗示させる。

これらの表象は、アッカド語の神託及び預言（ANET. p.449-452）のいたるところに見出される。殊に上記全般にみられる「*a-na-ku* ……（私は～（の神） ……である）」という神の自己顕現や、「*la ta-pa-làh*（恐れるな）」という表現定式はその最たるものである。また、夢（幻）で啓示されたという表象³⁵⁾が多く見出される³⁶⁾。

この様にみても、これらの託宣、預言から、サム下7章の「ナタン預言」の表象は著しくこれら汎メソポタミア的な「王に対する神の守りの約束」の託宣の形を受容しているかがわかる³⁷⁾。対し、89編Bにおけるこれらの表象はそれらとの関係は深いものの、託宣の中で神が「おまえ」に対して告げる形が、「彼（ダビデ）」に対してのものとなっている。

30 節（詩篇 89 編 B β）から約束はダビデの子孫にその対象を移す。この際、31-33 節において契約の不履行が罰せられることが最初に述べられるが、直ちにそれは「確かな愛」をダビデ王家の王から取り去ることではない、と注記される（34-38 節）。

また、ここでは YHWH とダビデとの間の関係について בְּרִית (ベリット)「契約」という言葉が用いられている。また, כּוּן (クーン) や כִּסֵּא (キッセー) といった言葉も用いられている。ベイヨラはこれらの言葉を分析し、申命記、そして申命記史家との用語的関連性を指摘した³⁸⁾。たしかに、これらの言葉は DtrH や DtrN にも用いられている言葉である。しかし、この詩篇に申命記史家の影響があるとするのにはかなりの無理があるといわざるを得ない。まず第一に申命記史家はイスラエル民族の苦難、受難を民が YHWH を離れること、ことに王が神から離れることに対する帰結として取り扱っている³⁹⁾。また、ダビデ契約においては王は懲らしめられることはあっても、徹底的に滅ぼされてしまうことはない、と約束されている。これに対し、申命記、申命記史家の記述において、神に従わない者には呪いと破滅が与えられている⁴⁰⁾。この B パートに続く詩篇 89 編 C では詩人は申命記に記されたような「呪い」を受けた状態になっている、と嘆く。しかし、この詩人の嘆きは「神がそのようなことをするはずがないのに」という色調で彩られている。もし、詩人が申命記的な歴史観を知っていたならば、このような哀歌、嘆願はありえないはずである。むしろ、なぜ、という色彩よりも、悔恨の色彩が色濃く映し出されてくるはずである⁴¹⁾。

詩篇 89 編 C

詩篇 89 編 C はヴェスターマンの詩篇区分において、共同体の哀歌 (CL) に分類されている。しかし、ワルケンホーストはこの詩篇を共同体の哀歌に分類しつつも個人的な哀歌、あるいは王の詩篇とも解釈できる、と保留している⁴²⁾。ヴェスターマン自身もこの詩篇の 52 節に個人の哀歌 (IL) の表象を見出している⁴³⁾。共同体の哀歌には「我々」という主題が多く見出される。しかし、この 89 編 C にはそれが見られない。

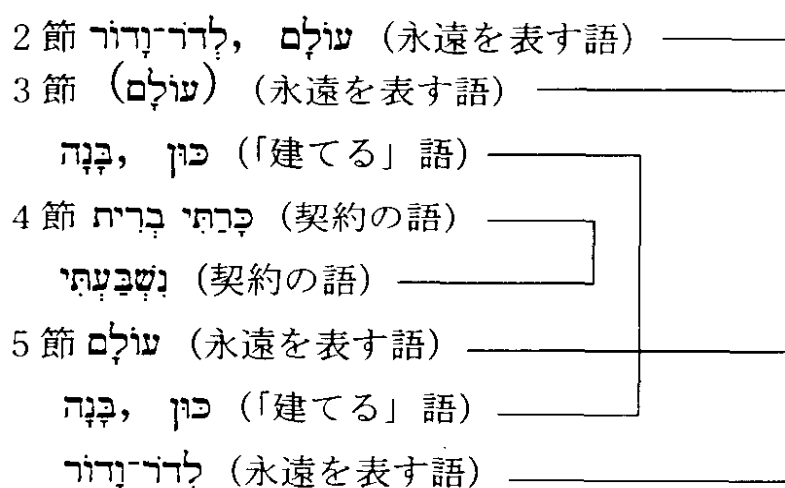
詩篇 89 編 C のこの詩篇全体に対する位置は、きわめてシンプルである。YHWH は創造者なる神であり、被造世界の秩序維持者のはずである (89 編 A)。また、YHWH はダビデ王家に対し、永遠に守る約束をしたはずである (89 編 B)。それなのに！ 神よ、これは一体どうしたことなのですか？ 私にはわかりません、私はもう待てません!! あなたの הִסְדָּךְ (ヘセド) の業はどこにいったのでしょうか……。

また、この詩篇 89 編 C は直前の詩篇 88 編と非常に似通った内容を持っている。第 1 に、両者とも、詩人が自分を死者の中の一人とみなしている点である。88 編は死の表象を多様な表現で述べる⁴⁴⁾。89 編 C も 47-49 節において、死の表象に彩られている。これはヴェスターマンの述べる第 2 主題・「私 (単数)」に関わる主題である。第 2 に、両者とも、この死の表象をもたらしたのは YHWH 自身である、と述べている⁴⁵⁾。第 3 に、これらの詩篇は詩人の現状において、YHWH の הִסְדָּךְ (ヘセド), אֱמוּנָה (エムーナー) が全く見られないことを告白し (88:11-13; 89:50), なぜ? どこに? と問いを発している⁴⁶⁾。

詩篇 89 編 C において「彼ら (敵)」はダビデ王家の王を שָׂסוּרָה (シャッスフー) 「略奪」し (42 節), 彼を הִלְפָּה (ヘルパー) 「辱め」 (42, 51 節) הִלְפֵּהוּ (ヘーレフー) 「嘲る」 (52 節)。そんな彼らを詩人は אֹיְבֶיךָ (オーイエベーカー) 「あなた (YHWH) の敵」 (52 節) と呼ぶ。実は、ここに一つの矛盾的表现が見出される。詩人はこの C パートの最初において、この苦難をもたらしたのは YHWH である、と述べていたのである (39-41, 43-46 節)。実に 89 編 C α において、「敵」が勝利を得、喜んでいる (43 節) のも YHWH の配剤ということになっている。しかし、89 編 C β において、詩人は「敵」を YHWH に対する敵対者とみなしているのである。また、ここでの「敵 (pl.)」 (52 節) は 51 節の「諸民 (pl.)」を受けた表現である。また、その諸民が敵である理由は 52 節の並行法表記から、明らかになる。すなわち、彼らが「あなたの受膏者」を嘲ったことが「あなたの敵」である所以なのである。

詩篇 89 編の全体的構造

詩篇 89 編は先述したように類型・用語から分類される AB パートの最初の二節ずつが独立して先頭に置かれるという、非常に独特の形を持っている。この 2-5 節を観察してみると、いくつか、技巧面での工夫が施されていることがわかる。まず、この四節の最初の節と最後の節にはそれぞれ、לְדֹר־דֹּר (レドールワードール)、עוֹלָם (オーラーム) という二つの永遠性を意味する語が置かれている (עוֹלָם (オーラーム) は 3 節にも)。また、この詩篇では לְדֹר־דֹּר (レドールワードール) という語は 2, 5 節でしか用いられていない。また、3, 5 節では בָּנָה (バーナー)「建てる」という語が用いられている。この語もこの詩篇中ではここでもしか用いられていない。そしてそれぞれに対し、同義語の כּוֹן (クーン) が並行法的に対応して用いられている。また, כְּרַתִּי בְרִית (カーラッティー ベリート)「私は契約を結ぶ (√ כָּרַת (カーラト) = 切る)」とその同義語 נִשְׁבַּעְתִּי (ニシュバアティ)「わたしは誓う」が 4 節の中で、並行法で並置されている。これにより 2-5 節は以下のような囲い込み構造を持つ。



この囲い込み構造により 89 編 A の創造神話の表象とそこで用いられている語は、ダビデ契約に集中するものとして再解釈され、また、AB 両詩も有機的につながるものとされている。これにより創造者なるツェバーオート神⁴⁷⁾・YHWH がダビデ王家に対して契約を持ったのだ、という主張が見られる。殊に

Aにおいて天的なものとして描かれていた הֶסֶד (ヘセド) が B においてダビデ王家に対する関係概念として転義しつつ、同一の語を用いられつつづけている点は非常に興味深いものである。A においてしめされたいくつかの天的表象は B β でダビデ王家の王の業として繰り返される。ここにも、この有機的結合の意味が見出し得る。詩篇 89 編は複数の層をそのうちに内包し、かつそれらが有機的に結合することにより、ダビデ王家への宇宙的な約束が反故になったことを嘆く個人(王)の哀歌となったのである。(あいこう・さとる)

注

- 1) ANET. p.268 に、この聖山アマナにおけるナラム・シンが描かれている。
- 2) Dahood (ダフッド), M. *Psalm 51-100 AncB* (1968) p.314.
- 3) Veijola (ベイヨラ), T. "The Witness in the Clouds: Ps 89:38" *JBL* 107/3 (1988) Mullen (ミューレン), E. T. Jr., "The Divine Witness and the Davidic Royal Grant: Ps 89:37-38", *JBL* 105 (1986) など参照
- 4) 「ミーム」という概念を最初に提起した Dawkins (ドーキンス), R. は『利己的遺伝子・改訂版』のなかで讃美歌 "Auld Lang Syne" が原文では 'For auld lang syne' であったものが、歌い継がれてゆく中で 'For the sake of auld lang syne' と歌われるようになった(ミーン・プールの標準化した)例を分析し、偶発的に発生した歯擦音が会堂で反響すること、聞き手の中に伝播しやすいこと、そしてそれ自体で意味を持ち、語の「生存価」が高いことなどを述べている。ここでは o/u 音の混同、キーワードとして用いられた音価の意味が読みこまれていることなどがいえよう。なお、「ミーム」についてはインターネットの News Group "alt.memetics" に最新の学説のアブストラクト、質疑などが寄稿されている。Dawkins (ドーキンス), R., *The Selfish Gene: New Edition* (Oxford: Oxford University Press, 1989 2nd. Ed. Trans. by. 日高利隆他, 東京: 紀伊国屋書店, 1991) p.511.
- 5) この韻律を破格もあわせて表記すると以下のようになる。
 2 節 (4+2+3) or (4+5), 3 節 (4+4), 4 節 (3+3), 5 節 (3+3), 6 節 (4+4), 7 節 (4+4), 8 節 (4+4), 9 節 (3+3+3), 10 節 (4+4), 11 節 (4+4), 12 節 (4+4), 13 節 (4+4), 14 節 (3+2+2) or (3+4), 15 節 (4+4), 16 節 (4+4), 17 節 (3+2), 18 節 (3+3), 19 節 (3+3), 20 節 (4+4+3) or (3+3+3+3), 21 節 (3+3), 22 節 (3+3), 23 節 (3+3), 24 節 (3+2), 25 節 (3+3), 26 節 (3+2), 27 節 (4+3), 28 節 (3+3), 29 節 (3+3), 30 節 (3+3), 31 節 (3+3), 32 節 (3+3), 33 節

- (3+2), 34 節 (3+3), 35 節 (2+3), 36 節 (3+2), 37 節 (3+3), 38 節 (3+3), 39 節 (3+3), 40 節 (3+3), 41 節 (3+3), 42 節 (3+3), 43 節 (3+3), 44 節 (3+3), 45 節 (2+3), 46 節 (3+3), 47 節 (4+3), 48 節 (2+4), 49 節 (4+4), 50 節 (4+3), 51 節 (4+4), 52 節 (4+4)
- 6) 20 節は 4+4+3 あるいは 3+3+3+3 とみなされる。ここでは前出の人称の変化が 20 節 a では 2 人称 YHWH であるのに対し, 20 節 b では 1 人称 YHWH, 3 人称 ダビデ王, 及び預言者となっていることを受け, 20 節 a (3+3), 20 節 b (3+3) という, 二つの連に分解する。
- 7) ただし, 20 節に見られるのは動詞 $\sqrt{\text{בחר}}$ である。
- 8) 15 節にみられる מִן־הַשָּׁמַיִם の用法はその他のものがダビデ王家の王座を指しているのに対し, YHWH 自身の宇宙秩序的王座である。(詳しくは後述)
- 9) Gesenius (ゲゼニウス), H. W. F. Kautzsch (カウチ), E. *Hebrew Grammar* second Eng. Ed. (Oxford: Clarendon Press. 1909) p.437.
- 10) 『エヌマ・エリシュ』の物語, その中でも特にバビロニアの主神・マルドゥクが海の神・混沌の神・ティアマトを倒すくだりは以下のように進行する。まず最初にティアマトの力で神々の会議が脅かされる (II タブレット ~)。これに対抗するためマルドゥクはエンリル権を与えられる (IV タブレット 3-28) (嵐の神エンリルは神々の会議において決定された宣告を執行し, 戦争にあたっては神神を指揮する。エンリルは秩序の守護者であり, 国家の擁護者であり, 神々の磐石である。このエンリルの表象は, それぞれの国家神に転用された。フランクフォート・H 他『古代オリエントの神話と思想: 哲学以前』(東京: 社会思想社, orig.1949 trans.1971 山室静・田中明訳) p.174f.)。
- そしてマルドゥクとティアマトが戦い (IV タブレット 75-140), マルドゥクはティアマトの頭を砕き (130), 二つに引き裂く (140)。しかる後にマルドゥクは世界の創造を行う (131-146)。その後, 天上の宴が持たれ (V タブレット), 人の創造に及び (VI タブレット ~), 最後にマルドゥクを「~である者」と分詞で表し (「王」を分詞構文で称える表象は王碑文に多く見られる。「タイトル」「エピセツ」等。参照「ハムラビ法典」前文 etc.), 物語は終わる。ANET p.60-72.
- 11) 『バアルとアナト』の場合, ばらばらに発見された石板の順序は他の神話表象からの推測ではあるものの, 同様の結果が推論されている。まず, 海の神・混沌の神・ヤムによって, 神々が脅かされる (b. III ABC-B)。それに対しバアルが立ち向かう (b. III ABB 38-)。そしてバアルとヤムの戦いが描かれ ((2). III

ABA), バアルはヤム, そしてナハル (「流れ」「川」の神・「裁き」「支配者」の神 (Ugr.=tpt nhr) (UT p.180)) を, 棍棒を持って打ち倒す (18)。その後, バアルは神殿を建てる (V AB-E)。この後, アナトとモートについてのいくつかの事柄があり ((3). V AB, 'nt.), 最後にバアルによる豊穡がもたらされ ((4). II AB, 51-) この物語は終了する。ibid. p.129-142.

- 12) モートもこの詩篇には登場しない。「冥府」を意味する מוֹת, 「死」を意味する מָוֶת は 49 節に登場するが, 当然それは非人格的表現である。
- 13) 特にバアル祭儀との対立の激しかった北王国でこの傾向は著しかった。
- 14) Hadley (ハドリー), J. M. "The Khirbet el Qom Inscription" VT 37 (1987).
- 15) 「彼 (人名ウリヤ) の敵から, 彼 (YHWH) のアシェラにより, 彼 (YHWH) は彼 (人名ウリヤ) を救った」 ibid. p.51.
- 16) Hadley (ハドリー), J. M. "Some Drawings and Inscriptions on Two Pithoi from Kuntillet `ajirud" VT 37 (1987): アシェラの記述のみならず, この碑文では lyhwh. šmln 「サマリヤの YHWH (土地神!!)」という表記をめぐって「守りの (מִשְׁמֶרֶת) YHWH」ではないか, という議論もある。
- 17) 「……わたしはあなたをサマリヤの YHWH とそのアシェラによって祝福しよう」 ibid. p.182.
- 18) その他, 出 34:13; 申 12:2-3; 士 6:25-30; 王上 15:13; 王下 18:4; 23:4, 14-15; 代下 14:2; 15:16; 17:6; 19:3; 31:1; 34:3-7 にそれを「壊した」記事が, 王上 14:15, 23; 15:13; 16:33; 王下 13:6; 17:10, 16; 21:3, 7; 代下 15:16; 33:3 には「建てた」記事が記載されている。
- 19) Dahood (ダフッド), M., op.cit. p.311.
- 20) 雅歌には古代中東に見られる聖婚思想の残滓が見出される。
クレーマー・S・N『聖婚：古代シュメールの信仰・神話・儀礼』（東京：新地書房, orig. 1969 trans.1989 小川英雄・森雅子訳） p.143ff.
- 21) Dahood (ダフッド), M. *Psalms 51-100* The Anchor Bible (U.S.A.: Doubleday and Company, Inc., 1968) p.289.
- 22) UT 68:10.
- 23) KAI 26 III 19.
- 24) KTU 1.118.28; 1.97.29.
- 25) RS 20., 24, 28.
- 26) KTU 1.39.7; 1.41.16.
- 27) מִצְרַיִם という言葉はエジプトを指す隠喩, 換喩表現として用いることができる語

である。また，𐤀𐤓 という言葉は混沌の神「ヤム」を指すと同時に一般名詞「海」でもある。

28) 詩 106; 136; 第二イザヤの各所 etc.

29) 出 2:3, 5; 10:19; 13:18; 15:4, 22; 23:31; 申 11:4; ヨシュ 2:10; 4:23; 24:6; イザ 19:6; 詩 106:7, 9, 22; 136:13,15; ネヘ 9:9。

なお，籠（棺桶のアナロジー）にいれられ葦の中に置かれた（「英雄の死による聖別」）モーセが葦の海で奇跡（救済）を起こす描写は構造主義がとる典型的な英雄物語の構造に合致する。

30) このダビデ王家に対する契約はサム下 7 章によると (1) 預言者を通して語られた。(2) 出エジプトの神 YHWH がダビデに地位を与えた点が明確化されている (サム下 7:6 以下)。(3) 地と王家を約束する。(4) 古代中東で一般的な父子イメージが用いられる。(5) 王は絶対権力者ではなく，YHWH との契約義務を負う。不履行は罰せられる (14 節 b)。(6) しかし，それでもこの契約は永遠の契約であり，罰せられることはあっても，取り去られることはない (15, 16 節)。特に，(1) と (2) は 89 編には存在しない部分である。また，詩篇 72 編によると，王の義は神より派生し (詩 72:1)，その統治はコスモスに根ざす (5-7 節)。そして土地の肥沃さに関わり (6, 16 節)，王が祝福の源であるため (17 節)，王は周辺諸国とも関わり (8-11 節)，また，貧しい者，孤独なる者の保護者である (12-14 節)。

31) Guinan (グイナン), M.D., "Davidic Covenant" *Anchor Bible Dictionary* (U.S.A.: Doubleday, 1992) p.70.

32) この語は全旧約で 9 回用いられているが，そのうち 3 例は חֲלוֹם 「夢」と並行法で (ヨブ 7:14; 20:8; ヨエ 3:1)，4 例は חֲזוֹן לַיְלָה 「夜の幻」といった形で (ヨブ 4:13; 7:14; 20:8; 33:15) 用いられる。また，サム下 7:17 の例は 7:4 と枠構造をなし，この 4 節には「夜」という言葉が用いられている。ニュアンスとして חֲזוֹן に比べて，「夢の幻」の性格が強い語である。

33) ANET. p.449-451.

34) Ishida(いしだ), T. *The Royal Dynasties in Ancient Israel: a Study on the Formation and Development of Royal-Dynastic Ideology* BZAW142 (Berlin, New York: Walter de Gruyter, & Co. 1977) p.90ff.

35) サム下 7:4, 17。詩篇 89 編では 20 節 aα。ただし，前者はナタン一人に示された幻とされているが，後者は「預言者たち」と複数で記されている。

36) 「アシェルバニパルへの手紙」 ANET. p.450f.

「アシェルバニパルに対する神託の夢」 *ibid.* p.451.

- 37) また、サム下7章において（そして「王の詩篇」詩篇72編においても）ソロモンに、詩篇89編Bにおいてダビデに与えられている「父—子」の表象はウガリットのケレト伝説にも見出される。

bn (m) 'il 'ad.

子 - エルの 父

これはケレト王の「エルの子」性を描くことで、ケレト王の地上での権威を保証するものである (KTU 1.16. I 10, 20 KTU 1.23.32, 43; UT 19:352)。なお、『バアルとアナト』において、バアルに天の会議の全権が与えられる前にヤムに対して、アナトによって、バアルが救い出される前にモートに対して (1.4 VIII. 23-24), mdd 'il 「エルに愛される者」という表象が用いられているのは注目に値する。

- 38) Veijola (ベイヨラ), T. *Verheissung in der Krise: Studien zur Literatur und Theologie der Exilszeit anhand des 89. Psalms* (Helsinki: Suomalainen Tiedekatemia. 1982) p.50ff.
- 39) 王下 17:7-20; 21:11-15etc.
- 40) 申 28:19-68; 王下 23:26f. etc.
- 41) 王下 22:13 etc.
- 42) ワルケンホースト・S・J『イスラエルの詩と信仰——詩篇入門』（東京：中央出版社，1972）p.75.
- 43) Westermann (ヴェスターマン), C. *The Psalms: Structure, Context & Message* (1967, Eng. Trans. Aigsburg publishing house, 1980) p.62.
- 44) 「冥府」(4節), 「穴」(5節), 「墓」(6, 12節), 「淵」(7節), 「闇」(19節), 「アバドン (ヨブ 26:6; 28:22; 31:12 参照。なおこの語は黙示録にも Ἀβαδδὼν (9:11) と音訳されて用いられている)」(12節), 「忘却の国」(13節), 「死人」(11節), 「幽霊」(11節), 「波」(8節)。
- 45) ヴェスターマンの区分で行くならば「あなた・YHWH」, 第1主題にあたる部分である (詩 88:8, 9; 89:39-41, 43-47)。
- 46) なお、両者には大きな相違点もまた存在する。88編において, 「彼ら」の表象はあくまで, かつて友人, 知人であったものがいなくなった, と「肯定的状況の消失」という消極的悪の形で述べているに過ぎない。しかし 89編Cにおいて, 「彼ら」は積極的に詩人を追い詰める。
- 47) Cross (クロス), F.M. *Cananite Myth and Hebrew Epic* (Cambridge: Harvard University Press, 1973) p.143.